

高専生・大学生・大学院生対象

冬の暮らし アイデアコンテスト

応募締切 ▶ 2023年10月31日(火)

テーマ

北海道における持続可能な
冬の暮らしに関するアイデア
※詳細は裏面をご覧ください

審査員



高野 伸栄
北海道大学大学院工学研究院
土木工学部門 教授



柿崎 恒美
国土交通省 北海道開発局
局長

対象者

応募申込時で
高専生・大学生・大学院生であること
※個人・グループは不問 ※1グループの構成人数は不問

賞

最優秀賞 30万円

優秀賞 10万円



宮口 宏夫
(株)北海道新聞社
代表取締役社長



鈴木 貴之
Creative Office CUE
タレント



倉内 公嘉
(一社)北海道開発技術センター
理事長

一般社団法人北海道開発技術センターは、積雪寒冷地域特有の諸問題について、政策の提言、調査研究、計画を行い、北海道ひいては国内外の積雪寒冷地域全体の発展にも寄与することを目的とした法人で、令和5年4月1日に創立40周年を迎えました。

この40年間、北海道は昭和・平成・令和と3つの時代の変化と共に、人々の冬の暮らしも大きな変化を遂げてきました。そして、現在、少子高齢化、気候変動、エネルギー、経済成長、地方創生など、我々はさまざまな課題を抱えながら、「持続可能な北海道」に向けて、新しい冬の暮らしを創造する担い手のひとりとして、その役割を期待される時代を生きています。

約40年前には、活力ある北国の生活文化の創造を目指し、雪に強い生活環境づくりを推進するといったアイデアがあり、それは「ふゆトピア」という愛称で呼ばれていました。

未来を見据えた「北海道における持続可能な冬の暮らし」について雪や寒さを克服するだけでなく、それを楽しむことや利用したりする新たな視点でのアイデアを募集します。



特設ページはこちら

主催



一般社団法人 北海道開発技術センター

協力 株式会社 北海道新聞社／株式会社 エフエム北海道 AIR-G'／認定NPO法人 ほっかいどう学推進フォーラム／一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター

後援 国土交通省 北海道開発局／北海道／札幌市

北海道における冬の暮らしの課題

北海道における冬の暮らしには、現在以下のような課題があると考えられます。

克 雪	近年の激甚化・頻発化する大雪、少子高齢化による除雪の担い手不足など、既存の積雪寒冷環境を克服する術が機能しづらくなっています。
利 雪	冷熱エネルギーを利用した雪貯蔵技術が開発され、食品等の高付加価値化が取り組まれております。今後は地球温暖化対策の役割も期待されるところです。
親 雪	「厄介者」と言われてきた雪氷ですが、ウインタースポーツ、アクティビティ、教育、観光などで冬の暮らしを特徴づけてくれています。今後の雪氷を前向きに捉えられる市民意識の醸成も必要と考えます。
冬の暮らしとSDGs	冬の暮らしは、いかに寒さと共存していくかといった側面もあります。持続可能な北海道を目指すには、脱炭素社会の構築にも目を向けなくてはなりません。

テーマ及び応募と審査の流れ

テーマ

- 北海道をフィールドとした持続可能な冬の暮らしに関するアイデア
 - 積雪寒冷地である北海道の未来に良い影響をもたらす冬の暮らしやライフスタイル、また、それらの仕組みとなる計画や制度などソフト面に関するアイデア
- ※いわゆる「空想」のアイデアも歓迎しますが、あまりにも現実離れている内容の場合「実現可能性」の観点にて評価点が下がります。

応募と審査の流れ

1 応募様式をダウンロードして下さい。

下記の事項を応募様式に記入してください。

- ・タイトルやアイデアの概要
- ・アイデアの具体的な内容

※写真やイラスト、グラフなどを含んでも構いません。ただし、A3用紙1枚に収めてください。



応募様式は
特設ページより

2 エントリーフォームにて、お申込み下さい。

個人またはグループ代表者の情報を入力し、PDF形式の応募様式(10MB以内)をアップロードにて提出してください。

※応募にはGoogleアカウントが必要です。



お申込みはこちら

2023年10月31日(火) 応募締切

2023年11月30日(木) 一次審査結果発表

3 一次審査結果発表

個人またはグループ代表者のメールアドレス宛に合否をメールにてお知らせします。

2024年2月29日(木) 二次審査・結果発表

4 二次審査及び結果発表

「冬のくらしアイデアコンテスト発表会(2024年2月29日(木)開催於:札幌市民交流プラザ)」にて行うプレゼンテーションの内容により審査します。

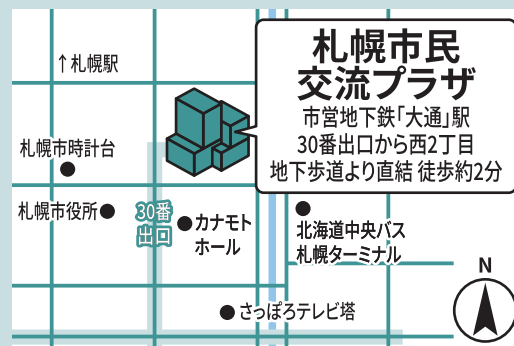
<審査基準>

アイデアの社会貢献度に加え、新規性や革新性、発展性、汎用性、実現可能性、プレゼンテーションや質疑応答を通じたコミュニケーション能力の観点から総合審査

プレゼンテーション発表者及び関係者の会場までの旅費等は、主催者が上限3名分まで負担致します。

会場

札幌市民交流プラザ
札幌市中央区北1条西1丁目



お問合せ先

一般社団法人 北海道開発技術センター
札幌市北区北11条西2丁目2-17セントラル札幌北ビル

TEL:011-738-3363
E-mail:konishi@decnet.or.jp(担当:小西)